

文章名: NWM-CUSTOM-PRESETS_TB_ML_1-1

発行日: 2010年8月

© 2010 L-ACOUSTICS®. All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by any means without the express written consent of the publisher.

1 はじめに

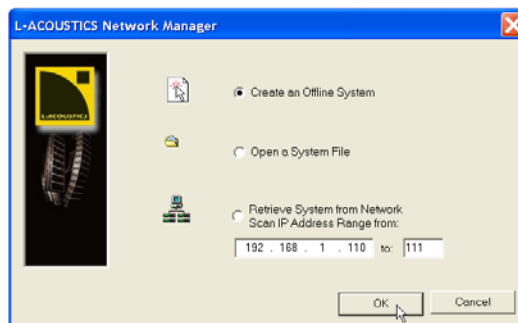
カスタムプリセットとは、ユーザーにより少なくとも1つの**アウトプットチャンネル**が置き換えられた**プリセット**のことです。カスタムプリセットとは、複数の**ファクトリープリセット**の組み合わせなので、カスタムの**プリセットファミリー**の一部として取り扱われません。

この技術情報は、**カスタムプリセット**の作成手順を示したものであり、使用に関する重要な推奨事項を示しています。

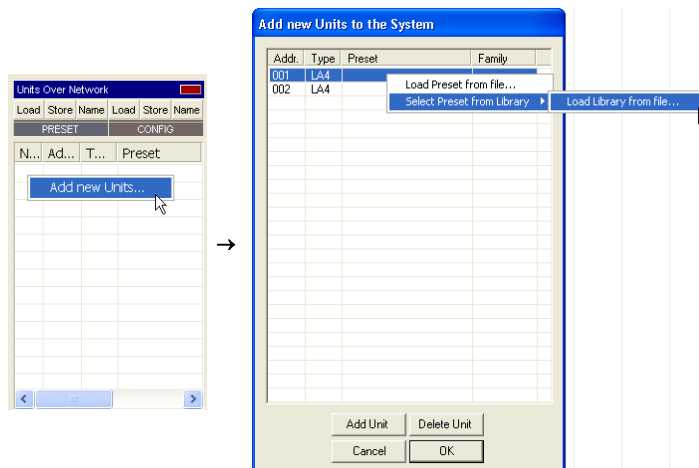
2 カスタムプリセットの作成手順

カスタムプリセットの作成は、主に、**ソース・ユニット**から**アウトプット・チャンネル**をエクスポートし、**ターゲット・ユニット**にそれをロードして戻す(**カスタムプリセット**を含める意図)ことから成り立ちます。下記の手順は**オフラインモード**で行う手順を示しています。**LA NETWORK MANAGER**ユーザーマニュアル(www.l-acoustics.com/la-network-manager)を参照し、この手順で使用するメニューと機能に関する詳細を確認してください。

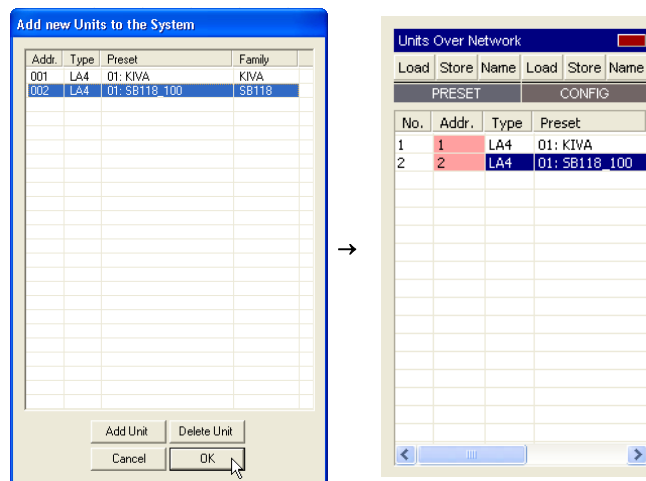
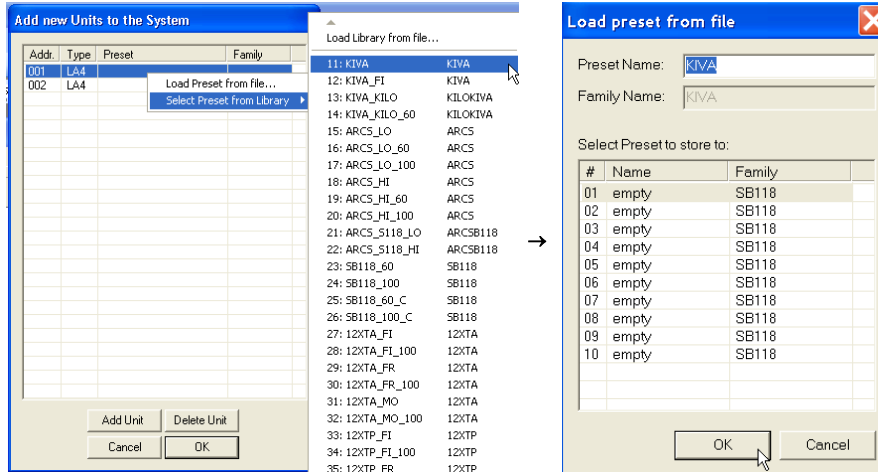
1. **オフラインシステムを作成する**: **File**メニューで、**New System**を選択します。ポップアップウィンドウで、**Create an Offline System**を選択し、**OK**をクリックします。



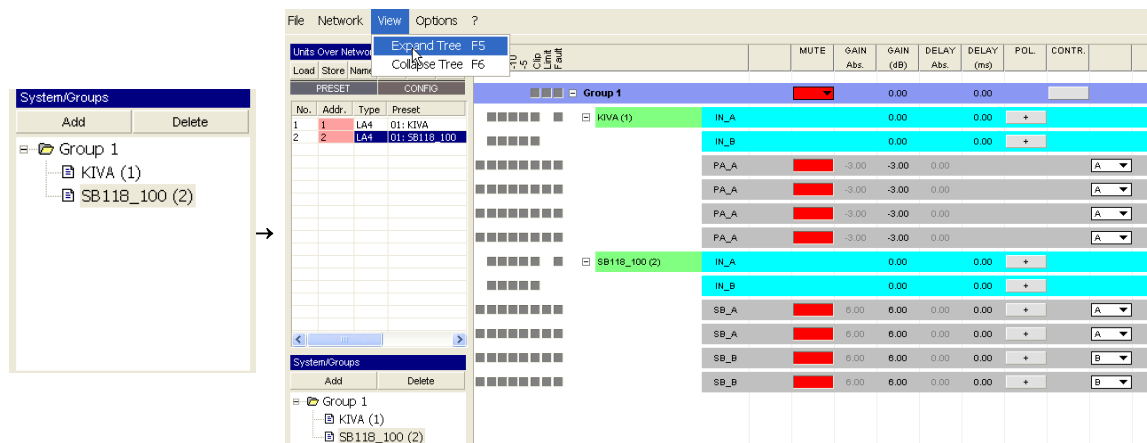
2. **ターゲット・ユニットとソース・ユニットを作成する**: **Units Over Network**ウィンドウで、どのセルでもよいので、右クリックし、**Add new Units...**を選択します。**Add new Units to the System**のポップアップウィンドウで、**Type**セルをクリックし、**LA4**または**LA8**を選択します(一方のユニットを**ターゲット・ユニット**、もう一方のユニットを**ソース・ユニット**として選択するので、最低、2つの**ユニット**を作成する必要があります)。ユニットの**プリセット**セルをクリックし、**プリセットライブラリー**をロードします(例: **LA4**の**プリセットライブラリー**)。→



3. 各ユニットで、ライブラリメニューからプリセットを選択します：ターゲット・ユニットのプリセットセルをクリックし、**Select Preset from Library**をクリックします。そして、任意のターゲット・プリセットを選択します(例：[KIVA])。同様に、ソース・ユニットにソース・プリセットを選択します(例：[SB118_100])。OKをクリックします。選択したプリセットは、**Units Over Network**ウィンドウに表示されます。



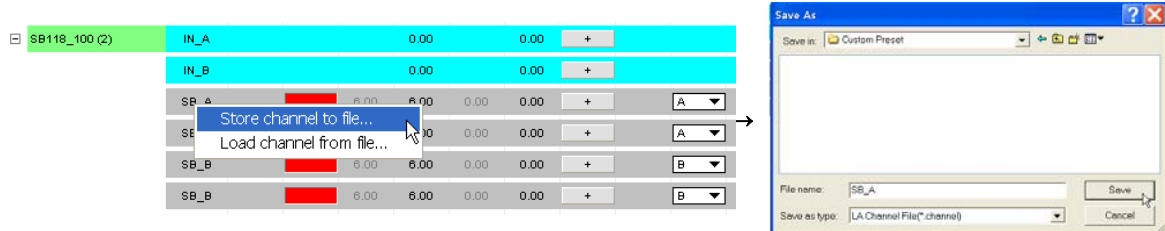
4. 両方のユニットを同じグループにします：ターゲット・ユニット[KIVA]を選択し、**System/Groups**ウィンドウにドラッグします(グループが自動的に作成されます)。ソース・ユニット[SB118_100]を選択し、ターゲット・ユニットと同じグループにドラッグします。**View**メニューを開き、**Expand Tree**を選択し、両方のユニットの**アウトプット・チャンネル**を表示します。



5. ソース・ユニットから任意のアウトプット・チャンネルをエクスポートし、a.channel fileを作成する:

ソース・ユニットの任意のアウトプット・チャンネル(例: SB_A)にマウスのカーソルを合わせ、右クリックをし、**アウトプット・チャンネルメニュー**を表示させます。**Store channel to file...**をクリックし、ディレクトリを選択し、有効にします。現在のアウトプット・チャンネルが、**アウトプット・チャンネル・パラメーター**を含め、選択したディレクトリに保存されます。

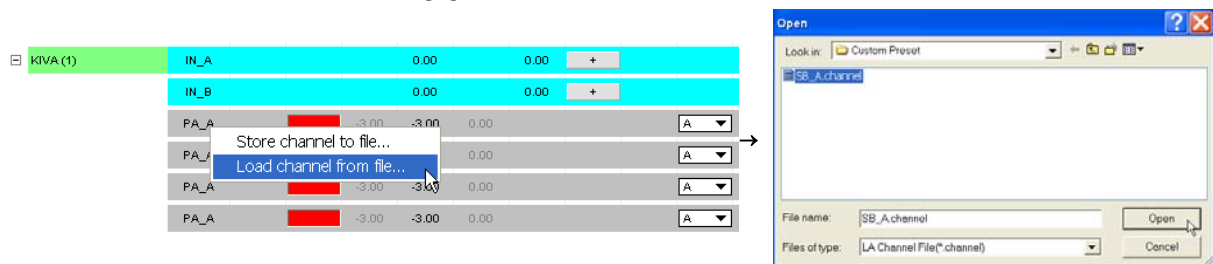
注: チャンネルのエクスポートに必要な条件は[3]に示されています。



6. 選択したフォルダーからターゲット・ユニットにアウトプット・チャンネルをインポートする: ターゲット・ユニットで任意のアウトプット・チャンネル(例: PA_A)を選択し、右クリックをし、アウトプット・チャンネルメニューを表示させます。Load channel from file...

をクリックし、事前に保存した**アウトプット・チャンネル・ファイル**を選択し、有効にします。この**アウトプット・チャンネル**が現在の物の代わりにインポートされ、以前の**アウトプット・チャンネル・パラメーター**を上書きします。これで**カスタムプリセット**が作成されます。

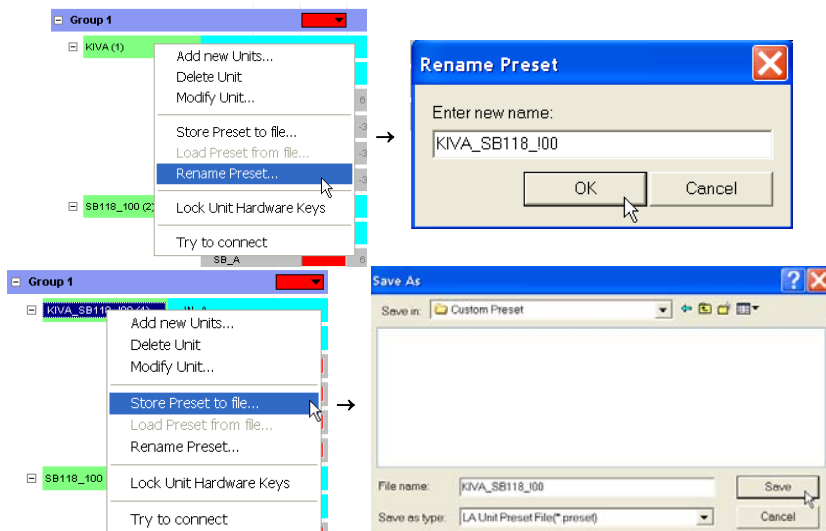
注: チャンネルのインポートに必要な条件は[3]に示されています。



7. 他のアウトプット・チャンネルも、ターゲット・ユニットにインポートするため、5と6の手順を繰り返します。

8. ターゲット・ユニットからカスタムプリセットを保存し、.preset fileを作成する: ターゲット・ユニット上で右クリックし、Rename preset...を選択します。任意のプリセットネームを16文字までで入力し(インターフェース上には13文字までしか表示されません)、OKをクリックします。

Store Preset to file...をクリックし、任意のファイルネームを入力します(プリセットの詳細を示せるよう多くの文字数で、.presetファイルに名前を付けることができます)。ディレクトリを選択し、有効にします。**プリセット・パラメーター**を含め、**カスタムプリセット**が、選択したディレクトリに保存されます。

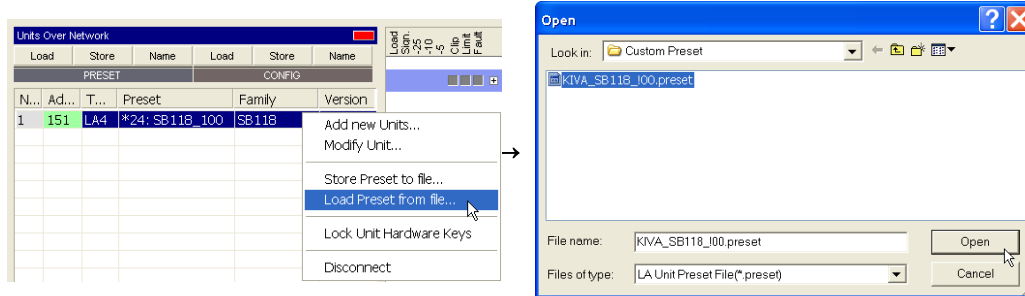


9. システムをオンラインモードにする: Networkメニューを開き、Retrieve System from Networkをクリックします。



ユニットを切断し、新しいプリセットまたは新しいアウトプット・チャンネルをロードし修正した後は、決して Try to Connect を利用して、ユニットをオンラインモードにしないでください。これを行うと、いくつかのパラメーターがフィジカルユニットにアップデートされず、スピーカーに損傷を起こす可能性があります。

10. フィジカルユニットにカスタムプリセットをロードする: システムがオンラインになったら、ターゲット・ユニットを右クリックし、Load Preset from file...をクリックします。カスタムプリセットを含む.preset file...を選択し、有効にします。



3 使用に関する重要な推奨事項



互換性を持たせるため、下記のチャンネルのみがエクスポート可能となります:

- ・ PAチャンネル、KILOKIVAファミリーから来るものを除く
- ・ SBチャンネル、カーディオイド・プリセットから来るものを除く

下記のチャンネルの代わりにアウトプット・チャンネルのみがインポート可能となります:

- ・ PAチャンネル (KILOKIVAファミリーのプリセットのチャンネル部を含む)
- ・ SBチャンネル (カーディオイド・プリセットの一部となっている場合を除く)
- ・ OUT1/OUT2にあるLF/HFチャンネルの組み合わせ (両チャンネルとも、インポートされたものと同じアウトプット・チャンネルになり、リプレイスされます;インポートした2つの内1つをさらに異なるチャンネルをインポートする事が可能です。)



Load channel from file...は下記の条件でのみ適用できます:

- ・ プリセットがユーザーメモリーロケーションにある場合 (1-10)
- ・ インポートするアウトプット・チャンネルが、ターゲット・プリセットと互換性がある場合(例:バージョン・ナンバーの最初の桁が同じプリセットライブラリーから取り出されている場合)
例:バージョン2.0は、バージョン2.1とは互換性がありますが、バージョン1.3とは互換性がありません。
- ・ オフラインモードの場合



ファクトリー・プリセット内の少なくとも1つのアウトプット・チャンネルをインポートする時、プリセットファミリーは自動的にカスタムとリネームされます。この場合、ファクトリー・プリセットファミリーのネームに関する互換性と安全制限はもはや適用されなくなります。従って、カスタムプリセットには分かり易いネームを付けることを強くお勧めいたします(16文字以内)。

例:ファクトリー[SB118_60]プリセットの最初のアウトプット・チャンネルにSB28チャンネルを入れる場合、カスタムプリセットに[28_60-3x118_60]とリネームすると、最初のチャンネルにSB118エンクロージャーが接続される(これが行われるとスピーカーのオーバー・エクスカージョン、またはサーマル・オーバーステップを起こすことがあります)間違いを防ぎます。